

第3学年 道徳科学習指導案

令和3年9月25日(土) 2校時

第3学年 1組村上 佳苗 2組原田 駿 3組倉富 千尋

- 1 主題名 【 こまっている人がいたら 】 B(6) 親切、思いやり
- 2 教材名 「みんながくらしやすい町」
- 3 ねらい 町の中にいる親切な人の様子が描かれた絵を通して、皆が暮らしやすい町にするために大切なことについて考えさせ、相手の状況に配慮し、親切な行為を自ら進んで行おうという実践意欲と態度を育てる。

4 展開

	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点
導 入	<p>1 「みんながくらしやすい町」とはどのようなものだと思うか、最初の考えを発表する。</p> <p>○「みんながくらしやすい町」とは、どんな町だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが気持ちよく笑顔で暮らせる町。 ・花がたくさん咲いていて空気がきれいな町。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材名にもある「みんながくらしやすい」という言葉に注目させ、「みんな」が「くらしやすい」とはどういう状態なのかを想像させる。
<p>【めあて】「みんながくらしやすい町」にするために大切なことは、何でしょう。</p>		
展 開	<p>2 「みんながくらしやすい町」を見て、話し合う。</p> <p>◎この絵の町の中にいる、親切な人を探してみよう。その人たちは、どんな気持ちでその親切な行いをしていると思いますか。一つの場面を選んで、プリントの四角の中に書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金を落としてしまった人のお金を、拾ってあげている人がいます。 <p>→困っているみたいだ。手伝ってあげよう。</p> <p>→一緒に拾ってあげたら喜ぶかな。</p> <p>→落としてしまった人は、落としたら恥ずかしくて、早く拾ってしまいたいと思うんじゃないかな。だから手伝おう。</p> <p>→みんなで拾えば、早く終わる。</p> <p>○自分の住む町を「みんながくらしやすい町」にするために、どんなことができるでしょう。プリントに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人がいたらお互いに助け合う優しさがあふれる町にしたい。 ・自分よりも他人のことを考えて、親切にする人がたくさんいる町がいい。電車に乗るときは、高齢者の方がいたら、相手の様子を見て「お先にどうぞ。」と声をかけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親切にしたほうがよいことはわかっているけど、できないことがある。そんな現実を乗り越えるために、親切な人やその人の気持ちを話し合う中で、「この親切にしている人たちには、『自分には関係ない』とか『恥ずかしい』という気持ちは、ないのかな。」と尋ね、無関心さや自分の恥ずかしさよりも、相手のことを思いやる気持ちが勝ることに気づけるようにする。 ・導入で尋ねた『「みんながくらしやすい町」とはどんな町だと思いますか。』を問い直し、暮らしやすい町のイメージを、さらに具体的に作ってから、自分のできることを考えさせたい。
終 末	<p>3 コラムを読んで、ユニバーサルデザインについて知る。</p> <p>○106、107 ページの「くらしの中のユニバーサルデザイン」を読んでみましょう。</p> <p>4 「学びの記録」に記入する。</p> <p>○今日の学習で学んだことを139ページの「学びの記録」に書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コラムを読み、「みんながくらしやすい町」にするための工夫が、自分の身の回りにもあることに気づかせる。

5 評価

「みんながくらしやすい町」にするために大切なことを考えることができたか。